

自然再生活動への参加を促すために――

ラムサールWEEK(7月22~29日)実施

テーマは「見つめる、守る、行動する」

●ラムあるき・クリーニング(7月22日)

地域を見つめるウォーキング行事『ラムあるき』に「行動」の要素をプラス。登録エリア各地での清掃活動や区の日役の後、ウォーキングで円山川公苑に結集し、今後の保全を誓うセレモニーを行いました。



楽々浦湾清掃チーム



円山川・菊屋島清掃チーム



気比の浜清掃チーム

しっかり保全するゾ
オーツ!



見つめる!
歩く!



田結区・桃島区では、
日役で草刈りや湿地づくり



円山川公苑に集まってセレモニーを実施



みんなで「ラムサール」の
人文字をつくりました。



六甲中1年生が、コウノリ
野生復帰とラムサール
を学び、田結湿地へ。

今日のみんなへの
指令は、
「ボロギクハンター」だ!
特製軍手とごみ袋を
渡すから、
班別に競争だよ!



しんじ
井出真司くん(六甲中1年)

暑かったけれど、みんなのために働くのは気持ち良かった。外来種が多いことに驚いた。この外来種をなくして、在来種を守り、増やしたい。



市民による作業を含め、3日間のハンター
作戦で約2トンを駆除
しました。



●ボロギクハンター作戦(7月23・25・26日)

田結の湿地に急激にはびこるようになった外来雑草「ダンドボロギク」駆除作業への参加を呼び掛けました。特に23・26日は、六甲中学校(神戸市)の臨海学校プログラムと連携し、ボロギクハンターとなった約200人の生徒たちと、ゲーム感覚で駆除作戦を実施。大きな成果を得ました。

●ラムサールセミナー(7月24日)

ラムサール登録を受けて、今後の豊岡のまちづくりをどのように展開していくべきか。

コウノトリ野生復帰に当初から関わってこられた団体の代表者を集まっていたとき、コウノトリ文化館で公開討論会を開催しました。

【基調講演】「ラムサール湿地としての豊岡」

ラムサールセンター事務局長 中村玲子さん



●豊岡の登録は、コウノトリはもちろん、「魚類基準」と呼ばれる国際的な基準によって、川、それも汽水を含む河川がエリアに含まれたことに大きな価値がある。

●登録は一つのゴールだが、登録湿地としてのスタートだ。二つの提案をしたい。

- ①「コウノトリの〜」を卒業することも視野に。コウノトリの後ろにあるこの地域の本来の価値を共有すべき。
- ②「豊岡の」「日本の」ではなく、「世界の財産」になった。今後は、世界の人々とつながろう。

【公開討論】「これからの豊岡を考える」



- コウノトリがいなくても、環境や自然再生が当たり前になるべき。「コウノトリからの卒業」という言葉に共感する。
- 魚を、川を大事にしようと言っても成功してこなかったが、コウノトリをテーマにすると魚類を含む生きものの裾野も広がってきた。豊岡の場合、手法としてコウノトリを指していれば、必然的に多様性が出てくると思う。
- ラムサール登録は、この地の(生物の)生産性へのお墨付きだ。
- 鳥の目から見れば、「登録湿地って」こんなに狭い地域なの?」と思っているかも。今後、六方田んぼなども含め、真のラムサール湿地になるべき。
- これほど子どもが川に入ってくれる地域は珍しい。生きもの調査は、魚にとっては功罪両面あるが、成長した子どもたちが、いつかは再生産をしてくれることを期待している。
- 子どもたちが自然の中で群れて遊ぶまち、カエルやメダカが溢れるまち、そのためには若者が定住できるまちになしてほしい。

※基調講演・公開討論の詳細は、市ホームページで公開しています。

●ミュージカル「おもひでぼろぼろ」(7月28日)

劇団わらび座が、ジブリ作品の代表作を舞台化。思い出が詰め込まれた豊岡の風景について、ミュージカルを通じて感じる機会としました。



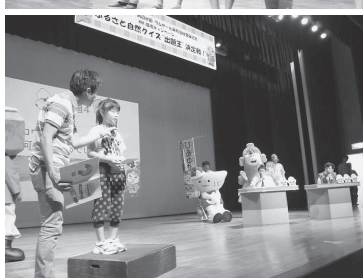
©スタジオ アクア



熱演が心に染みしました

●NHK環境キャンペーン(7月29日)

人気お笑いコンビ「アメリカザリガニ」をゲストに迎え、「ふるさと自然クイズ出題王決定戦」を実施。市内の小学生が自然に関するクイズを出題し、ゲストとの楽しいやりとりの中で地域への理解を深めました。



NHK神戸放送局・姫路支局と共催